

地方独立行政法人秋田県立病院機構 令和7年度計画

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

1 質の高い医療の提供

(1) 発症予防に向けた取組

◇専門職等への新たな知見や研修機会の提供、県民への情報発信

両センターは、脳卒中、心疾患、認知症の予防、早期発見、早期治療について、指導者講習会や県民向け講演会等の開催、県内研修会への講師派遣を行い、有効な指導法の研修機会や最新情報を提供する。

両センターは、広報誌・ウェブサイトなどにより県民へ医療や健康に関する情報を発信する。

令和7年度の計画値

指導者講習会回数	全 体	2回
県民向け講演会回数	全 体	2回

◇高度医療機器を活用したドックの充実

循環器・脳脊髄センターは、健診部門において、高度な医療機器を活用した脳ドックを行う。

リハセンは、脳ドック実施機関として脳ドック受診数の増加を図り、早期発見・早期治療に努める。

循環器・脳脊髄センターは、認知症の発症予防について、リハセンと協力して高度な診断機器を活用した体制を整備する。

リハセンは、認知症の早期発見や早期治療に循環器・脳脊髄センターのアミロイドPETを有効に活用する。

令和7年度の計画値

検診件数	全 体	1, 3 1 2 件
------	-----	------------

(2) 政策医療の提供

◇脳と循環器の三次救急医療の拠点及び精神科救急の全県拠点病院

循環器・脳脊髄センターは、脳・循環器疾患の三次救急医療の拠点として、24時間365日の対応を行うとともに、脳と循環器の包括的医療を提供する。救急隊との情報共有を推進し、救急患者受入体制の強化と応需率の向上に取り組む。

また、脳梗塞急性期血栓回収療法の輪番制病院として、他医療機関と連携するとともに、県傷病者搬送受入協議会やメディカルコントロール協議会への参画を引き続き行い、救急隊と連携する。

リハセンは、集約的な治療及びクリニカルパスの導入によって入院患者の早期退院

を目指す。

また、秋田県精神科救急システムの地域輪番病院及び県拠点病院として、常時患者を受け入れるために、救急患者や措置入院患者の後方移送の制度化を目指し、空床確保に努める。

なお、地域輪番病院の当番回数は減少するため、救急患者数は減少する見込みである。

令和7年度の計画値

救急患者数	循環器・脳脊髄センター	1, 137人
救急患者数	リハセン	130人
経皮的脳血栓回収術	循環器・脳脊髄センター	30件
脳と循環器の包括的な医療提供患者数※	循環器・脳脊髄センター	30人

※脳卒中患者のうち、心臓カテーテル治療を要する患者数

◇最先端の高度訓練機器を積極的に取り入れたリハビリテーションの機能強化

循環器・脳脊髄センターは、ロボットやVR（コンピューターによって仮想空間を現実であるかのように疑似体験する技術）を活用し、リハビリテーションの質と量を充実させるとともに、回復期リハビリテーションに向けての継ぎ目のない急性期リハビリテーションを実施してADLの向上を図る。

リハセンは、脳卒中の重度片麻痺上肢に対する作業療法、パーキンソン病患者の進行期ごとの介入方法、患者の退院支援等の体系化を図る。

パーキンソン病に対するAR（現実の世界にデジタル情報を付加して現実を拡張する技術）、脳卒中や脊髄疾患に対するロボットスーツHALを用いた理学療法を行う。

令和7年度の計画値

リハビリ重症患者改善率※	循環器・脳脊髄センター	50.0%
リハビリ重症患者改善率※	リハセン	60.0%

※保険診療における施設基準でのリハビリテーション実績指数

◇両センターが協力して行う認知症への最新医療提供体制の整備

両センターは、アルツハイマー病の新薬による治療を実施するとともに、治療の過程においてはアミロイドPETを有効に活用して治療の充実を図る。

また、県内医療機関とはアミロイドPETの活用を中心に連携する。

(3) 医師の働き方への対応

勤怠システムを利用した適切な労働時間の把握を推進する。産業医による時間外・休日労働時間が1か月当たり100時間以上となる医師への面接指導を行い、医師の健康確保に努める。

タスクシフト/シェアを推進することを目的に、医師の診療を補助する特定行為看

護師を育成し、配置する。

(4) 医療従事者の確保・育成

秋田大学医学部附属病院との連携強化、労働環境の改善、ウェブサイトを活用した効率的な情報発信により医療従事者を確保する。

各種団体や関連学会が主催・運営する研修・教育システムの活用によるキャリアアップを計画的に行う。

(5) 患者・家族の視点に立った医療サービスの提供

入院及び外来患者を対象とした満足度調査や食事の嗜好調査、県民や患者・家族からの意見聴取などをもとに、療養環境の整備やホスピタリティーの向上に取り組む。

また、患者の権利擁護を意識した治療及び療養環境を整備するとともに、患者・家族をサポートする相談窓口等には、一定の研修を受講し患者の権利を尊重する職員を配置し、県民へ信頼される医療サービスを提供する。

(6) より安心して信頼される医療の提供

法令等を遵守し、医療安全を担当する職員の育成、職員研修の充実、インシデント報告の徹底により、医療安全対策を推進する。

巧妙化するサイバー攻撃への対応など、情報セキュリティ対策に継続して取り組み、安心して信頼される医療を提供する。

令和7年度の計画値

研修会への職員一人当たりの受講回数（医療安全）	循環器・脳脊髄センター	2回
研修会への職員一人当たりの受講回数（医療安全）	リハセン	2回
研修会への職員一人当たりの受講回数（感染管理）	循環器・脳脊髄センター	2回
研修会への職員一人当たりの受講回数（感染管理）	リハセン	2回

2 医療に関する調査及び研究

◇両センターによる一体的な研究体制の構築

両センターによる一体的な研究を推進するため、循環器・脳脊髄センター研究所の組織構成を機能的に再編するとともに、新たな研究部も設置する。

令和7年度の計画値

専従の研究員数	循環器・脳脊髄センター 研究所	6人
---------	--------------------	----

◇大学・医療機関等と連携した研究活動の推進

循環器・脳脊髄センター研究所は、大学、医療機関などとの共同研究を推進する。

◇医療水準向上に繋がる先駆的な研究の実施

脳・脊髄・循環器疾患、精神疾患、認知症疾患及びリハビリテーションについて、より先駆的な研究及び臨床に応用できる研究を推進し、医療水準の向上に努める。

◇研究成果の広報

国内外への論文発表を推進し、研究成果をウェブサイトなどにより県民へ広報する。

令和7年度の計画値

原著論文発表件数	循環器・脳脊髄センター 研究所	40件
----------	--------------------	-----

3 医療連携の推進及び地域医療への貢献

◇県の三次医療及び地域医療を支える医療機関としての貢献

循環器・脳脊髄センターは、脳と循環器の包括的医療を提供する三次救急医療と脊髄脊椎疾患への外科的治療を実施し、回復期リハビリテーション機能を中心に地域との連携による回復期医療・生活期医療の機能強化を図るほか、多様な併存疾患に対応するため秋田大学医学部と連携して診療科を新設する。

また、地域医療構想の実現に向けて、地域の医療機関、介護・福祉施設等との連携を強化する。

リハセンは、重症例、難治例に対する治療抵抗性統合失調症治療薬クロザピンの使用や反復的経頭蓋磁気刺激療法を積極的に行うとともに、新たに導入した電気けいれん療法高出力機器を用いて、修正型電気けいれん療法を安全に実施する。

また、多職種協働による心理社会的治療を組み合わせ、救急患者に対する治療を充実させるとともに、依頼に応じて専門的知識に基づいた精神鑑定を実施する。

認知症診療において、髄液バイオマーカー検査あるいはアミロイドPET検査により、軽度認知障害から軽度の認知症のアルツハイマー病を早期診断し、レカネマブまたはドナネマブによる疾患修飾療法を行い、アルツハイマー型認知症の治療成績向上を目指す。

令和7年度の計画値

回復期リハビリテーション病棟における病床利用率	循環器・脳脊髄センター	68.8%
回復期リハビリテーション病棟における病床利用率	リハセン	82.0%
地域医療連携パス件数	循環器・脳脊髄センター	30件
地域医療連携パス件数	リハセン	170件
画像診断サービス提供件数	循環器・脳脊髄センター	1,201件
画像診断サービス提供件数	リハセン	75件

◇デジタル技術を活用した連携医療の推進

循環器・脳脊髄センターは、厚生労働省標準規格に則った総合医療情報システムの更新を行う。

リハセンは、電子処方箋の有用性を患者に周知し、活用を推進する。

循環器・脳脊髄センターは、あきたハートフルネットや急性期画像連携システムの活用により、他医療機関との相互連携を強化するほか、オンラインシステムの活用により医療と介護・福祉間の切れ目ないサービス提供に向けた連携を強化する。

◇医療や健康に関する情報発信及び医療従事者の教育・研修

両センターは、ウェブサイト等を活用し、健康寿命の延伸に向けて県民へ医療や健康に関する情報発信を行う。

他医療機関の医療従事者、臨床研修医、学生等へ教育・研修の機会を提供する。

令和7年度の計画値

県民向け講演会回数（再掲）	全 体	2 回
研修受入人数	全 体	1 3 7 人

4 災害及び新興感染症への対応

◇DMAT・DPAT体制の充実

循環器・脳脊髄センターは、DMAT隊員養成研修への職員派遣により隊員の増員を図るとともに、現隊員の技術の維持向上のため県内外の研修及び訓練に積極的に参加するほか、出動要請に対して柔軟な対応を行うため資機材の点検及び更新を定期的に行う。

また、大規模院内災害訓練を実施し、災害マニュアルの確認、見直しを行う。

リハセンは、県内で実施される各種研修、訓練、全国規模で実施されるDPAT先遣隊研修、大規模地震訓練などに参加し、多様な災害に対する対応能力を向上させる。

DMAT、DPATは、秋田県保健医療福祉調整本部のコーディネートチームにおいても活動する。

◇災害拠点精神科病院の体制整備の推進

リハセンは、県との協議を継続し、災害拠点精神科病院指定に向けた課題の抽出と整理、それらの課題の解決に向けた作業を行う。

◇新興感染症に備えた体制の強化

循環器・脳脊髄センターは、新興感染症の感染拡大時の医療提供体制について、関連病院との連携強化やインфекションコントロールドクター（ICD）の育成、感染制御チーム（ICT）を中心とした職員の感染防止技術の向上等に取り組み、求められる感染症対応を確実に提供できる体制を整備する。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 効率的な運営体制の構築

病院機構全体を一体的に運営するため、各部署にプロジェクトチームを設置し、各部署の役割の明確化を図る。高額な予算執行は、精査を経て事業年度中の資金状況を考慮のうえ執行可否の判断を行い、予算、収支計画、資金計画の進行管理を徹底する。

2 病院経営に携わる事務部門の職員の確保・育成

病院事務や経営に関する各団体の研修受講などにより病院経営に精通した人材を育成する。

3 収入の確保、費用の節減

病院経営指標の分析、費用対効果の検証、スケールメリットを生かした契約方法などにより収入の確保と費用の削減に努める。

両センターは、診療報酬の情報を精査し、令和6年度診療報酬改定において経過措置となっている施設基準に的確・迅速な対応を行うとともに、新たな加算等の取得により収入の確保に努める。

循環器・脳脊髄センターは、救急隊や他医療機関との連携強化、広報活動等による救急患者や紹介患者の増加、病床利用率の向上により、収入の確保に努める。

リハセンは、医師の異動や看護師の退職による人員減の影響を受けて病床利用率の低下を見込むものの、人員を確保し、患者動向や感染症対策に留意しながら病床利用率の向上に努める。

令和7年度の計画値

病床利用率	循環器・脳脊髄センター	66.5%
病床利用率	リハセン	87.4%

第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

（注）

- 1 予算 病院機構の業務運営上の予算を、現金主義に基づき作成するもので、県の予算会計に該当するもの
- 2 収支計画 病院機構の業務の収支計画を、発生主義に基づき明らかにし、純利益又は純損失という形で表すもの
- 3 資金計画 病院機構の業務運営上の資金収入・資金支出を、活動区分別（業務・投資・財務）に表すもの

1 予算（令和7年度）

区 分	金 額（百万円）
収 入	
営業収益	10,120
医業収益	5,357
運営費交付金	4,710
その他営業収益	53
営業外収益	141
運営費交付金	32
その他営業外収益	109
資本収入	1,350
運営費交付金	699
長期借入金	651
その他資本収入	0
計	11,611
支 出	
営業費用	9,721
医業費用	9,487
給与費	6,020
材料費	1,091
経費	2,240
研究研修費	136
一般管理費	233
基金等事業費	1
営業外費用	71
資本支出	1,896
建設改良費	796
償還金	1,100
その他資本支出	0
予備費	0
計	11,688

【消費税等の取扱い】

上記の数値は消費税及び地方消費税込みの金額を記載している。

【人件費の見積り】

当期中総額6,175百万円を支出する。なお、当該金額は、役員報酬、職員基本給、職員諸手当及び法定福利費等の額に相当するものである。

【運営費交付金等】

- 1 運営費交付金は運営費負担金を含む。
- 2 建設改良費及び長期借入金等元利償還金に充当される運営費交付金等については、経常費助成のための運営費交付金等とする。

【脳血管医学振興基金事業に係る寄附金の使途等】

脳血管医学振興基金の事業に充てるものとして受領する寄附金（当該基金の運用によって生じた運用益を含む。）については、基金等事業費の脳血管医学振興基金事業費として支出し、当期中の支出金額は415千円とする。

2 収支計画（令和7年度）

区 分	金 額（百万円）
収入の部	11,051
営業収益	10,962
医業収益	5,347
運営費交付金収益	5,102
資産見返負債戻入	481
その他営業収益	32
営業外収益	89
運営費交付金収益	32
その他営業外収益	57
臨時利益	0
支出の部	10,999
営業費用	10,543
医業費用	10,328
給与費	6,230
材料費	993
経費	2,065
減価償却費	917
研究研修費	123
一般管理費	214
基金等事業費	1
営業外費用	456
臨時損失	0
純利益	52

【消費税等の取扱い】

- 1 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっている。
- 2 控除対象外消費税等負担額及び資産に係る控除対象外消費税等負担額は営業外費用に含まれている。

【運営費交付金】

運営費交付金収益は運営費負担金収益を含む。

3 資金計画（令和7年度）

区 分	金 額（百万円）
資金収入	12,298
業務活動による収入	10,262
診療業務による収入	5,358
運営費交付金による収入	4,742
その他の業務活動による収入	162
投資活動による収入	0
有価証券の償還による収入	0
運営費交付金による収入	0
その他の投資活動による収入	0
財務活動による収入	1,350
運営費交付金による収入	699
長期借入金による収入	651
前期事業年度からの繰越金	686
資金支出	11,832
業務活動による支出	9,935
給与費支出	6,319
材料費支出	1,091
その他の業務活動による支出	2,525
投資活動による支出	797
有価証券の取得による支出	0
有形固定資産の取得による支出	775
その他の投資活動による支出	22
財務活動による支出	1,100
長期借入金の返済による支出	492
移行前地方債償還債務の償還による支出	594
その他の財務活動による支出	14
次期事業年度への繰越金	466

【消費税等の取扱い】

上記の数値は消費税及び地方消費税込みの金額を記載している。

【運営費交付金】

運営費交付金による収入は運営費負担金による収入を含む。

【繰越金】

前期中期目標期間からの繰越金及び次期中期目標期間への繰越金には、当期開始前に運用を開始し、当期中に未償還の有価証券を含まない。

第4 短期借入金の限度額

1 限度額 500,000,000円

2 想定される短期借入金の発生事由

運営費交付金及び運営費負担金の交付時期の遅れなどによる一時的な資金不足への対応

第5 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし

第6 剰余金の使途

決算において生じた剰余金は、繰越欠損金に充てる。

第7 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

1 施設及び設備の整備に関する計画

循環器・脳脊髄センターは、脳ドックのオンラインでの結果説明や通常診療におけるオンライン診療の活用を検討し、効率的な診療の実施を図るほか、マイナンバーカードによる健康保険証の利用や電子処方箋の導入を推進し、各種手続きの簡素化により経営の効率化に努める。

リハセンは、事務業務の負担軽減、医療サービスの質の向上、医療安全の向上を図るため、国が推進する医療DXに呼応した設備の段階的な整備について検討する。

施設・設備の内容	予 定 額	財 源
医療機器等整備	797百万円	長期借入金等

2 人事に関する計画

職員の業績・能力を的確に反映した配置や人事管理を行う。

3 職員の就労環境の整備

ワーク・ライフ・バランスに資するよう、多様な勤務形態の導入など、過重労働のない働きやすい職場環境の整備に努める。

4 地方独立行政法人法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の処分に関する計画

なし